「水木マンガの生まれた街　調布」の推進に向けた有識者懇談会報告書

～水木作品や世界観を後世へ如何に継承していくか～

調布市生活文化スポーツ部産業振興課

目次

第１　有識者懇談会について
Ⅰ　目的 …… 1
Ⅱ　調布市基本計画（施策 17 より抜粋） …… 1
Ⅲ　参加者 …… 1
Ⅳ　開催実績（全３回） …… 2

第２　現況 …… 2

第３　懇談会内容
Ⅰ　現状と課題，街づくりへの活用について …… 3
Ⅱ　有効利用の方策について …… 4
Ⅲ　事例研究と実現方策について …… 6

第４　まとめ
Ⅰ　発信について …… 10
Ⅱ　保存・保管について …… 10
Ⅲ　平和教育について …… 10

第１　有識者懇談会について

Ⅰ　目的

調布市基本計画の『17-2 地域資源を活用したにぎわいの創出』に掲げているとおり，市では『水木マンガの生まれた街　調布』の推進に取り組んでいます。令和４（2022）年の水木しげる氏御生誕100周年の節目を見据え，水木氏の作品・世界観を如何にして後世に残し，伝えていくのか，それを市のまちづくりにどう活かしていくのかを，市としてより一層検討していくところです。

本懇談会では，専門的な知見を有する方々を有識者としてお招きし，幅広く御意見を賜るとともに，市の施策の向上や基本的取組の具体的内容を多角的な視点で検討するものです。

Ⅱ　調布市基本計画

施策の方向	地域資源の魅力の向上と積極的な活用により，市民がまちの魅力に愛着と誇りを持ち，多くの来訪者からもまた訪れたいと思われる，にぎわいのあるまちづくりを進めます。
施策のポイント	「映画のまち調布」「深大寺」「水木マンガ」などの地域資源を活用した取組の推進
基本的取組の内容	17-2 地域資源を活用したにぎわいの創出 ◆「水木マンガの生まれた街　調布」の推進 調布市名誉市民・水木しげる氏の御功績を称え，御命日である11月30日を中心に実施する「ゲゲゲ忌」をはじめとした「水木マンガの生まれた街　調布」としての事業を推進します。 また，御生誕100周年（令和４（2022）年）の節目を見据え，妖怪を中心とした独特の世界観を表した漫画や画集などの作品をはじめ，自らの戦争体験に基づく数々の著作，文献などの御功績をまちづくりに生かしつつ後世に伝えていく方策を多角的に検討し，更なるまちの魅力向上につなげていきます。

Ⅲ　参加者（役職は当時）

・里中満智子　氏（公益社団法人日本漫画家協会　理事長）
・松崎　一洋　氏（株式会社 NHK ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ 展博事業本部　ｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞ・ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ）
・持木　正隆　氏（戦傷病者資料館「しょうけい館」　元事務局長）
・原口　尚子　氏（株式会社水木プロダクション　代表取締役）
・原口　智裕　氏（株式会社水木プロダクション　取締役）
・中山　三善　氏（スヌーピーミュージアム　館長）
・永富　大地　氏（東映ｱﾆﾒｰｼｮﾝ株式会社　ｱﾆﾒ「ｹﾞｹﾞｹﾞの鬼太郎」（第６期）ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ）
・原島　芳一　氏（調布市観光協会　会長）
・金城　史朗　氏（調布市観光協会　理事，鬼太郎茶屋　マネージャー）

Ⅳ　開催実績（全３回）

回	日時	テーマ	会場	参加者数 （傍聴）
1	令和元年７月５日（金） 午前 10 時 30 分～12 時	①水木しげる氏の作品の世界観を後世にどのように残し，伝えていくか ②まちづくりに活かすという視点での具体的な提言や意見について	教育会館 301 研修室	６人 （２人）
2	令和元年９月 30 日（月） 午前 10 時 30 分～12 時	①水木作品や世界観の魅力を伝える展示会について ②水木作品の平和･教育への活用について	教育会館 301 研修室	６人 （２人）
3	令和元年 12 月 24 日(火) 午前９時 30 分～11 時	他の取組事例を踏まえた水木作品の保存･保管･活用方法に関する取組	調布市民プラザあくろす ホール２	６人 （１人）

第２　現況

『水木マンガの生まれた街　調布』の推進に向けたこれまでの主な取組一覧

① 調布市名誉市民の顕彰
② ＮＨＫ連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」での各種取組
③ アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」（第６期）での各種取組
④ ゲゲゲ忌の開催（ちゃんちゃんこ・ストラップの着用等）
⑤ バナーフラッグ・のぼり旗・横断幕・懸垂幕等の作成・掲出
⑥ ゲゲゲの鬼太郎特別住民票の作成
⑦ 市報ちょうふ・図書館だより・観光マップ・各種印刷物での記事・キャラクター掲載
⑧ 各種展示・上映会の開催
⑨ 調布市花火大会で「鬼太郎花火」打ち上げ，ミニハッピにイラスト掲載
⑩ 鬼太郎ひろばの開園
⑪ 調布駅前広場路面影絵照明の設置
⑫ 「ゲゲゲの女房」主題歌を列車接近メロディーに採用
⑬ ミニバスのラッピング，ナンバープレート，マンホール，ポスター・ステッカー等での活用
⑭ 名刺・封筒等でのキャラクター活用
⑮ 境港妖怪検定を始めとした鳥取県境港市との連携・取組
⑯ 京王電鉄，FC 東京，神代植物公園，図書館，郷土博物館，商工会，商店会等との各種取組

ほか多数

Ⅰ　現状と課題，街づくりへの活用について

第１回では，水木氏の人柄や作品の性質，取組に関する現状や課題，街づくりへの活用に関する具体的提言等について，幅広く御意見をいただいた。

【第１回出席有識者】
里中満智子氏，原口尚子氏，原口智裕氏，永富大地氏，原島芳一氏，金城史朗氏

○現状等

・「ゲゲゲの鬼太郎」のように，６度もリメイクされるアニメは非常に珍しい。それぞれが時代を映す鏡となり，各世代に広くファンを抱えている。また，原作にないキャラクターの登場が許容されるのも珍しく，作品の懐の深さや水木先生の考えが大きく影響している。
・テレビ放映等の影響もあり，鬼太郎茶屋の来店者増加はもとより，小学生を含む若年層が水木先生の戦争に関する作品・著作を購入されるケースも増えている。今後，子供の心を育てることに役立てるなら，次のステップ・ステージが必要なのではないか。
・水木作品の背景となる世界観や制作に対する姿勢・気持ち，その根底にあるものに触れてみたい・もっと見てみたいという気持ちは多くの方が持っている。しかし，市内で唯一通年展示している鬼太郎茶屋では，設備上から限られた展示しかできず，多くの要望に応えられずにいる。
・水木先生の戦争体験や画家・漫画家活動，鬼太郎や妖怪の誕生など，その過程において大変な苦労があり，それらが作品に反映されている。この水木先生の作品・世界観を後世まで廃れないように残したい，そのための協力をしていきたい。
・数年前から，鬼太郎茶屋に訪問される海外のツアー客が増加している。

○課題等

・原稿の保存と展示の仕方は漫画家（協会）にとって今後の最重要課題である。特に保存・保管については，しっかりとした団体が，適切な設備等で保管する必要があるのではないか。
・水木作品や水木先生という人物への関心を維持するには，継続的なアクションが必要。
・「水木マンガの生まれた街　調布」の今後を考えたとき，来訪された方に楽しみ・喜んで帰ってもらえるものがなければ，街の賑わいの観点では不足するだろう。水木先生の貴重な作品等が通年で見られるスペースがなければ，調布に来る方の期待には応えられない。

・水木先生の作品を今後もより多くの人に，また世界に向けて発信していくには，プロダクション以外に行政側の協力・PR が欠かせない。調布を水木マンガの聖地としてアピールするにも当然必要なことである。

○街づくりへの活用

・来訪者に対して，経験を提供することが求められる。そこでしか得られない経験が出来るかどうかが重要である。これからのキャラクターを活用した事業・ビジネスには，欠かすことができない要素だと実感している。『ゲゲゲ忌』で実施されているスタンプラリーをブラッシュアップしていくのも必要だし，それらが定常的に楽しめる場所や仕掛けが必要なのではないか。

・戦争をテーマに用いた作品も沢山あるため，これらの作品を通して戦争・平和などを学べる機会を子供たちに作ってあげたい。

・数々の妖怪たちの世界は，『命とは何か』という根源的な問いの中で生まれてきたものであり，水木先生が妖怪たちを通じて他者との共存やそれぞれの価値観の共有をメッセージとして残した。このある種の価値観・世界観に基づいた『水木ランド』があるといい。その前提として，まずは残されている作品管理をしっかり行い，ひとかけらも漏らすことなく保存に努めてもらいたい。

・大きい夢がないと小さい夢も叶えられない。市民の皆さんがここにいて良かったなと思われるものが，また子育てに繋がるようなものが出来れば嬉しく思う。

☞次回は，水木作品や世界観を活用した展示・展覧会，戦争・平和教育の取組・経験に長けた方を有識者に迎え，話を伺う。

Ⅱ　有効利用の方策について

第２回では，第１回での懇談内容を振り返るとともに，議論された展示や保存，平和教育への有効利用について，幅広く御意見をいただいた。

【第２回出席有識者】
松崎一洋氏，持木正隆氏，原口智裕氏，永富大地氏，原島芳一氏，金城史朗氏

○展示等

・『水木しげる 魂の漫画展』では，水木先生の圧倒的な画力，それに裏打ちされた緻密な背景，極めて漫画的にデフォルメされたキャラクターの対比の面白さを大事にした。また，ストーリの意外性や悲惨な戦争体験などから形作られた悟りの境地のような人生観も表現した。

・『水木しげる 魂の漫画展』の展示手法としては，屏風仕立てやブロンズ像を活用するなど『でこぼこ』を付け，意外性や面白い展示を心掛けた。また，映像やモダンな作

品解説も積極的に取り入れ，漫画特有の単調な展示にならないよう配慮した。

・過去の他作品の展示会と比較し，動員は非常に良い。アニメ・漫画は一つのカルチャーとして認知・確立され，世間的にもニーズは高く，受け入れられやすい雰囲気・気運がある。

・生原稿には『気』が宿るというのは，アニメも同様であり，展示を成功させる大きな要因になる。また，水木先生の人生やキャラクターを通じて生み出される人生観や哲学など，漫画作品だけでない先生の魅力的な部分が展示できるとなお良い。

・どんなに素晴らしい作家・作品でも世に出していかなければ埋もれ，忘れ去られる。

・水木作品を好きになった方が調布を訪れ，もう一歩踏み込んだ水木を知っていただく，そういう機会を提供できる形が描ければ理想的だ。

・展覧会は，実施する側の企画・提案がなければ成立しない，機会を与えられなければできないことであり，プロダクションの活動だけでは限界がある。関心を持たれた方が，見たい時に見られる場を提供していくのがプロダクションの務めでもある。

・ジブリ美術館，ドラえもんミュージアムは，市民の理解を得て人気を博しており，同じ行政が関わった施設としても参考にすると良い。

・過去の経験から，施設運営はどんなに良いコンセプトであっても，スタッフの姿勢・関わり方次第で駄目になる。そのため，施設運営の方針やゴール設定は事前にしっかり行うこと。また，維持継続には予算も重要であり，明確な指標がないと先細りの運営になる。『維持すること』と『その物の良さを伝える』ことは両輪でやるべきであり，最初の時点で整理し，組み立てておくことが大切だ。さらに，行政だけで担うことは将来的に問題が大きくなるため，市民も巻き込んでやっていくことが大事だ。

<u>○保存</u>

・作品は保存環境が悪いと劣化する。その中でも漫画の原稿は劣化するのが非常に早く，水木先生の作品は温湿度，特に光・紫外線に弱い。美術品を扱うような感覚・知識・技術が必要。

・外に出したら出しただけ作品が痛むのは事実，それを承知のうえ，ダメージを最小限に食い止めながら，内容を考え展示していく，後世に伝え残していくことが求められる。非常に難しいことだが，大変意義がある事だ。

・鬼太郎茶屋の展示スペースは設備として十分ではない。

・展示と保存が兼ねられる施設が必要だと感じている。

・水木先生が残してくれた素晴らしいメッセージ・作品を市が中心となって整備していくのは非常に意義のあること。

<u>○平和教育</u>

・戦傷病者資料館『しょうけい館』では，子供には刺激の強い展示や面白くないといった意見も以前あったが，水木先生の作品を活用してからは，子供たちが身近なものとして捉えてくれるようになった。先生の作品は，年代関係なく受け止められ，それで

いてさりげなく戦争体験が盛り込まれており，子供たちが理屈抜きで感じてくれるものだ。

・市が平和教育の観点で活用を検討していることは非常に良いことだと思う。

・水木先生の作品には，戦争体験に基づいた作品も多くあり，是非，子供たちにも知ってもらいたい。

・鬼太郎茶屋でも重たい内容を扱った展示を行ったことがあるが，子供たちが熱心に見てくれていたのが印象的だ。水木しげるのテレビや報道などでの明るい表情・言動とのギャップに衝撃を受ける子もいた。

・戦争に対する見方は，時が経てば色々な意見も出てくるが，戦争を劣化させない・風化させないことについては，アニメーションが果たせる役割もあると感じている。今後も水木先生の作品の発展にアニメーションでも，少しでも協力できればと思う。

・アニメ第６期「ゲゲゲの鬼太郎」では，登場するキャラクターが戦争体験した設定になっており，水木先生の言葉・体験をキャラクターが作中で表現していた。人から聞くよりも親しみを持ちつつ，真剣に見てもらえる内容となっていた。このような水木作品を使った平和教育・新たな試みについても，今後の水木作品を残し・発展させていくうえで大切なことだと感じている。

☞次回は，作品の保存・保管・展示や美術館・記念館等の開設・運営に携わる方を有識者に迎え，話を伺う。

Ⅲ　事例研究と実現方策について

第３回では，過去の懇談内容を振り返るとともに，第２回で議論された作品の保存・保管・展示に関する他の取組事例を紹介・説明いただき，それらの実現方策や将来像等について，幅広く御意見をいただいた。

【第３回出席有識者】
中山三善氏，原口尚子氏，原口智裕氏，永富大地氏，原島芳一氏，金城史朗氏

○他の取組事例

・民間企業が美術館を設立する理由や目的は，税制面，利益の有効活用，社会貢献，イメージ戦略など様々である。

・公立美術館においても自治体ごとに美術館設立の理由や運営方法は異なる。ただし，『５年，10 年，20 年と安定して活動を継続していけるか』が，民間企業にとっても自治体にとっても共通した課題である。

・公立美術館の一例

美術館	行政の方針	特徴
足利市立 美術館	複合型公立美術館	・建物の上層階は賃貸住宅マンション ・規模的には大きくない典型的な市立美術館 ・優秀な学芸員の研究や，他の美術館との連携により専門家筋から評価の高い展覧会を開催
植田正治 写真美術館	個人顕彰型美術館	・植田正治氏の写真作品約 15,000 点を所蔵・展示 ・美術館に近い境港市が，植田氏の出生地であり活動拠点，「鳥取砂丘」を舞台にした作品が有名 ・建物の大規模修繕を数年前に実施済
浜田市 世界こども 美術館	「こども」と 「世界」をテーマ にした美術館	・世界中の子供たちの絵を収集・展示 ・文化庁などからの補助金により，海外から講師や子どもたちを招聘 ・「地方，地域のこども，国際交流」は，補助金を獲得する上で評価が高い ・国内外から専門家や学芸員が視察に来る

・官民共同型の美術館づくりの一例

美術館	特徴
ジブリ 美術館 （三鷹市）	・正式名称『三鷹市立アニメーション美術館』 ・BTO 方式，ジブリ側が建物を三鷹市に寄贈，施設管理費として市から 4000 万円/年 ・高さ制限により地下を掘ったため，建設費・開設費が約 44 億と高額 ・入館チケットの転売防止のため，本人認証を実施 ・日本で一番繁盛している美術館のひとつ
藤子 ミュージアム （川崎市）	・正式名称『川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム』 ・作者が青年期から晩年期まで過ごした川崎市に原画約５万点を寄贈 ・川崎市が小田急電鉄から敷地を賃借 ・ジブリ美術館と同じく BTO 方式，藤子プロが建物を市に寄贈 ・施設管理費として市から 5000 万円/年

・官民共同型の美術館づくりの一例（続き）

美術館	特徴
スヌーピーミュージアム（町田市）	・米カルフォルニア州にある『シュルツ美術館』の世界唯一のサテライトミュージアム（分館） ・2016 年に開館した六本木のスヌーピーミュージアムの移転が発端 ・町田市と東急電鉄による再開発事業に参画 ・町田市の『英語教育』という目的とコンテンツの特徴が合致 ・東急電鉄も購買力の高い客層の誘致に期待 ・町田市が建設用地の基盤整備費を負担し土地を無償提供 ・『システム建築』を導入し，工期と費用を抑制 ・カフェやミニ図書館，子どもクラブが併設

・美術館運営には，ビジネス的な側面と教育的な側面があり，自治体は後者を優先する場合が多いが，民間事業者は赤字であれば閉めざるを得ない。そのため，展示や保存も大事だが，今の美術館に重要なのは，飲食事業（カフェ）や物販事業（ショップ）。ジブリ美術館や藤子ミュージアムもこの分野に力を入れている。

・スヌーピーミュージアムでは，ショップの商品の品切れについてお叱りを受けることが多く，それだけファンは熱心であり，楽しんでいただける要素でもある。

・水木先生の作品を守り，充実した展示によって多くの来館者を得て，その活動を長く続けて行こうとするならば，様々なサービスを提供して行く必要がある。

・必ずしも話を箱づくりに持って行くつもりはないが，公立・民間を問わず，美術館運営には経営的な側面を含め多角的な検討が必要だと思う。

<u>○実現方策等</u>

・ミュージアムという形式がいいのか分からないが，お客様にどのような体験を提供できるか，それをどのようにデザインするのかが最も重要であり，力点を置くべきところ。ジブリ美術館のように，唯一無二の得難い体験，そこでしか見られない展示，ここでしか体験できない展示，また行ってみたい，人に薦めたい，と思えるような特別な体験の提供が成功の要因になる。

・持続可能性の観点は大事であり，先細りするようなものでは意味がない。将来のことも考慮し，建物や過程（プロセス）などトータルでデザインしていくことが求められる。

・水木先生を求めて来訪される方は多くいる。鬼太郎茶屋の規模は小さいが，少しでも水木作品に触れられる場所・施設を目的に運営してきた。しかし，設備や時限的な制約で思うような展示ができないことも現実にあり，茶屋に代わる施設を考えたとき，ミュージアムがあるといいなと思う。まだまだ沢山の人を呼べると感じる。

・子供を対象とした施設は，交通の便がいいことが望ましい。調布は立地的にも非常に優れており，ジブリに匹敵する事業ができると思う。是非，ミュージアムを作る機会があれば，前向きに進んでもらえればと思う。

・スヌーピーの作者であるシュルツ氏のご遺族がスヌーピーミュージアムに期待していること（シュルツ氏の紹介など）と，水木プロダクションとして水木の業績・人物･作品を後世に残す取組は同じであり，ミュージアムが非常に目的に適う施設であることを再認識した。
・スヌーピーミュージアムは，町田市の施策（英語教育）にスヌーピーというコンテンツが合致した事例であり，民間企業と自治体がお互いに win-win で進められている。
・水木先生の切り口は沢山あり，水木先生御自身を始め，平和の尊さ，戦争の悲惨さや愚かさ，障害者としての人生，妖怪，昭和の懐かしさを思い起こさせる人物でもある。沢山ある側面を活用し，調布市の目的に合致するところで，市内にミュージアムのような施設が官民共同で作れれば理想的だと思う。

第４　まとめ

第３にあるとおり，有識者懇談会では水木作品に関する今までの取組，課題や有効利用に向けた方策・可能性等について議論いただきました。水木しげる氏御生誕 100 周年の節目を見据え，水木氏の作品・著作・御功績等を街づくりに活かしつつ，後世へ継承するべく，引き続き，多角的な視点で様々な方策を検討してまいります。今回いただいた貴重な御意見は，下記に整理し，今後の事業展開の一助といたします。

Ⅰ　発信について

○水木氏の人柄・人生観やその作品・著作・世界観などの持つ魅力は，世代を超えて愛され続けており，周りに与えた影響は計り知れない。市にとっても貴重な財産であるこの水木作品を風化させることのないよう，展示やイベントを始めとした様々な方策を通じてその魅力を発信し，後世に引き継いでいく必要がある。

○見たい・触れたい・興味を持ったファンや来訪者の期待・要望に応えるには，今までにない貴重な作品や工夫を凝らした展示，特別な体験の提供が求められる。また，街の賑わい創出の観点においても，それが恒常的に出来ることが望ましい。

○『水木マンガの聖地』としての調布のブランド化による観光・産業振興には，プロダクション以外に行政側でのＰＲ・協力が欠かせない。

Ⅱ　保存・保管について

○水木氏の作品・世界観を後世に継承するには，作品自体を残すことが前提となる。長期的視点のもと，確かな団体が適切な設備・技術等で保存・保管する必要がある。また，展示においても，美術品同様の条件・レベル（光・温湿度など）が求められる。

○作品にとって，保存と展示は相反するものであり，その判断・技術は困難であるが，水木氏が残された素晴らしい作品・メッセージを市が主体的に整備していくことは非常に意義深いことである。

○引き続き，他の事例を収集・検証し，様々な手法・可能性を官民が一体となって検討するとともに，参画者それぞれの取組姿勢，目的や役割を明確にする。

Ⅲ　平和教育について

○水木氏御自身の体験や作品には，世代を越えて『平和の尊さ』や『戦争の悲惨さ・愚かさ』を理屈抜きに伝える力がある。子供たちへの平和教育・心を育てることへの活用は積極的に推進していくべきである。

○戦争に対する見方は，時の経過とともに様々に変化することもあるが，戦争を劣化させない・風化させないという視点においては，アニメを始め，水木作品を用いた新たな取組やアプローチが可能であり，水木作品の保存・活用の観点でも意義がある。